

# 太陽さま

武内 和子

太陽さまは生物です。このように書けば疑問に思われる方もいらっしゃると思いますが、太陽さまは生きていらっしやいます。

光を放つ物体ではなく、生物です。太陽様を光を放つ科学物質か、ガスの塊りが燃えているように思うのは間違いです。

太陽さまが

「私は生きています、生物ですよ」

と、私に告げられたことが数多くあります。

太陽様が生物と告げられるのと同時に、この世の中に天使が存在することも知りました。天使との出会いです。

天使たちは、太陽様が生物であることを証明するために、命を投げ出して忠実に使命を果たします。

私は一匹の大きな蜘蛛に出会いました。その蜘蛛は、ガラス窓に止まって動こうとしません。死んだふりをした体勢で、足一本も動かしません。

三日間も同じ格好でいるのです。私は心配になり

「蜘蛛さん、同じ所にいると、餌にもありつけずに死んでしまうよ」

と、言いながら、棒の先でこちらこちら、と軽くつつきました。蜘蛛さんは、バタンと下に落ちました。蜘蛛さんは死んでいたのです。

蜘蛛さんを見ると、腹が焼けていました。自然死なら腹が焼けたりはしません。また、足一本も動かすことなく、死ぬことは出来ません。死の苦しみにもがき苦しむはずです、死とはそういうものだと思います。

私は蜘蛛さんの腹を見て思い出しました、蜘蛛さんの死んだ時のことをです。一瞬の出来事ですが、一筋の鋭い光の矢が私の目の前をサーと走りました。

私は何だろうとは思いましたが、その時点では、気にも止めずにいました。その時、太陽さまは蜘蛛の腹を焼かれたのだと思いました。蜘蛛さんの腹を焼かれたのは、あの光だ、鋭いあの一線の光だと思いました。

このように書けば、太陽様は悪魔のように惨いお方だと、思われるかもしれませ

んが、それは違います。その蜘蛛さんは病気にかかっていたのです。動作が鈍かったから、そのように思います。

それと、カラスさんが

「蜘蛛さんは病気でした、安楽死です」

と、言って鳴き知らせてくれたのです。

自然死は苦しいので、太陽さまの愛の光で安楽死させられた。この蜘蛛さんは腹が焼けていたので、ガラス窓のガラスに皮膚や筋肉や内臓がべったりくっつき、死んでも下に落ちることがなく、生きていた時と同じ姿勢でしんでいたのです。

太陽さまと地球は遠く離れています。その地球の片隅の小さな我が家、さらに小さなガラス窓の小さな蜘蛛に、光が当たる不思議さを思い、太陽さまならではの技に感激して、夢を見ている思いでした。

この蜘蛛さんを通して、太陽さまはこうして私は生きています、と伝えていらっしやると思いました。

太陽さまの伝え方は、意味が深く複雑なのですが、私は生物です生きています、という証でもあります。

「死んだふりをした、と言っていた」

とも知らせて下さっているのです。

これには色々な事情があり、又、いきさつもありますが、このことは後で書くことにして、太陽さまが生きていらっしやる証を書いていきます。

私は一筋の鋭い光を見た時、太陽さまは光を放つ物質でもなく、ガスの炎の塊りでもなく、生きていらっしやる、生物なのだと思います。

光を投げ込まれた時、その鋭い光は生きていました。光の動きに生を感じ取りました。生きていらっしやる太陽さまだから、光を集め鋭い一線となし、蜘蛛を焼くことがお出来るのです。このことを、よく見せていただきました。

これが太陽さまの生物の証でもあります。物体は光を集めたり、光で蜘蛛を焼くことは出来ないからです。

この一瞬のことを後になって思い出してみると、私の目の前を鋭い閃光が走った時、一瞬、蜘蛛さんが苦しそうにしました、天使が太陽さまに仕える一瞬を、太陽さまは私に見せて下さいました。

私はこうして生きていますよ、と太陽さまは言っていたらっしやると思っています。

私にその現場を見せて下さいましたから、無意味なことはなさらない神だから、生物ですよ、と伝えるためになさったと私は思います。

太陽さまから地球に光が届くのには、八分十九秒かかりますが、私が蜘蛛さんの側を何時とおるか、八分十九秒前にキャッチして、光を集められたことになります。私に光を見せるためになさったと思いますから。

このように、太陽さまは下界で私がどこにいて何をしているか、何もかもご存知です。ということは生物であるということです。このことも太陽さまが生物であることを、証明すると思います。

光の強さ鋭さを目の前に見て、この光を大きく集めると、地球だって爆破させることがお出来になると思いました、そのように強い光でした。

そして、その光の的確さにびっくりしました。小さな蜘蛛さんに命中するからです。一線の光はその蜘蛛さんにだけでした。

腹を焼かれた蜘蛛さんは、私に抜け殻を置いて逝ってくれました。その抜け殻も死んだふりをしている抜け殻でした。遺体と同じポーズを取り、同じ体形でした。

腹を焼かれ一瞬にして、死んで逝った蜘蛛さんに対し、自然死は非常に苦しい、腹を焼かれた蜘蛛さんは安楽死なんだと、証明したいのか、太陽さまは誠の愛の持ち主だと思いたいのか、無慈悲なお方ではないと知らせたいのか、金と黒の縞模様の蜘蛛さんがやって来て自然死のすさまじい死に方で死んで逝きました。

その蜘蛛さんは苦しいのか、上へ行ったり下へ降りたりしていました。十日間もそのようにしていましたが、蜘蛛の巣の下の方で息絶えていました。

その蜘蛛さんは言いたかったのです。腹を焼かれて死んで逝った蜘蛛さんは、太陽さまの愛でした、安楽死なのです。そのことを証明するために苦しみに耐え、生物の自然死はこのように苦しいことを証明し、天寿を全うして死んで逝きました。

天使たちは命を投げ出して、太陽さまがいかに素晴らしいかを示しながら、忠実に仕事を成し遂げます。

太陽さまは光を集めたり話したりが、お出来になります。光を集め地球を破壊なさることはありません。光を大きく集め地球に当てられると、地球は粉々になります。太陽さまは慈悲深いお方であり、地球を愛していらっしやいます。また、地球に住む人間も愛していらっしやいます。だから、最愛の地球を壊されることはありません。

生物ですので、お考えなさったり、愛という感情をお持ちです、また、怒りもお持ちです。愛するがゆえの怒りのようです。

仮に地球を破壊されたと仮定すると、太陽系そのもののバランスが崩れるそうです。星と星は手を繋ぎ握り合っている、引力に依って引き合っているとのことですから、北斗七星、おおくま座、しし座、おとめ座、からす座、うしかい座、その他の星座が、何年過ぎても形を変えないのは、星間は引力に依って、手を繋ぎ合っているからだそうです。

ある日、カラスさんが、

「雲さんを見なさい」

と、言って、カアカア鳴きながら、雲の下を一回転します。私はじいーと雲さんと睨めっこをしていますと、雲さんは大きな怪獣みたいな絵を描いていましたが、その雲さんはだんだん薄くなり、いつの間にか消えてなくなりました。

私は雲が姿を変えるのは見ますが、大きな雲が完全に消えてなくなるのを、見たのは初めてです。

雲の水蒸気を太陽さまが、あの強い熱で飲み込まれるのでしょうか。雲は跡形もなく完全に消えています。太陽さまが私はこうして生きています、生きているから出来るのです、と言っていていらっしやるようにも思えました。そして、私を思いだし、「今、貴女はデッチあげられ、色々と言われているけれど、今の雲のように消えてなくなるでしょう」

と、太陽さまは天体ショーに依って、知らせて下さっている、と思えました。

このように意味深い現象も、太陽さまの生物としての証となるでしょう。

私は太陽さまから送られる絵や字が見えるので、色々と知ることとなったのです。太陽さまはおっしゃいます。

「地球は私の子供です」

それは絵に依って知らせて下さいました。太陽と地球が光によって結ばれている、絵を送られました。その光は、光り輝き強く結ばれていました。その光に太陽さまの地球に対しての愛を感じ取りました。

このように書いていますと、カラスさんが

「全て本当ですよ、地球は太陽さまの子供ですよ」

と、言って鳴き、証明します。

太陽さまが燃えていらっしやる炎と、地球の火山のマグマが酷似していますので、「地球は太陽さまの子供」とは本当なのでは、と思ったりします。それを証明するのは、太陽さまの原子と、地球のマグマの原子ではないでしょうか。原子はDNAになると思います。

竹内 和子

一九三五年生まれ  
長崎県佐世保市在住  
嬉野国立病院勤務